

実践報告

関係構築を可能にする多様なコンテキストの創出 —コンテキスト・シフティング・エクササイズの実践—

山本 志都

東海大学

要旨

コンテキスト・シフティング (CS) とは石黒 (2013, 2016) の提唱した概念的ツールで、自己、他者、自他の関係性に関わる現象を単純化し否定的に捉えている状態から脱却し、新たな視点や理解を得るために、複数の異なるコンテキストへ移動することである。コンテキスト間を意図的に移動することで単純化した見方を解きほぐし、現象を多面的に理解することを目的とする。本論文では、CSを異文化間能力として学ぶことを目的に筆者が開発した「コンテキスト・シフティング・エクササイズ (CSエクササイズ)」の授業における実践、および、その結果を報告する。まずCSの概念的な説明とCSエクササイズの紹介を行い、次に授業での実践と参加者による結果を報告し、エクササイズの学習効果を確認する。結果の分析から、参加者は対立する他者とのつながりを持つことのできる多種多様に新たなコンテキストを創出し、そこから「状況が関係性を変える」、「関係構築に開かれた多面性に気づく」、「共通点の存在や状況変化が先入観の誤りに気づかせる」ことが学びとして報告されていたことがわかった。

キーワード：コンテキスト・シフティング、異文化トレーニング、異文化間能力

1. はじめに

本論文では、石黒（2013, 2016）が概念的ツールとして提唱した「コンテキスト・シフティング（CS）」を異文化間能力として学ぶことを目的に筆者が開発した「コンテキスト・シフティング・エクササイズ（CSエクササイズ）」の授業における実践、および、その結果を報告する。以下では、最初にCSの概念的な説明とCSエクササイズの紹介を行い、次に授業での導入と参加者による回答を報告してエクササイズの学習効果を確認し、最後に回答の分析結果に基づき考察したい。

2. 先行研究

石黒（2016）は、多くの人が特定の限られた「コンテキスト（物理的環境、社会・文化的な規則、規範、当事者間の共有知識や対人関係など）」（p. 33）を自動的に前景化させることによって、現象を単純化、矮小化して解釈している問題を指摘している。石黒によると、例えば海外から来たアジア系観光客に対する否定的な反応には、大手メディアの供給する理解のコンテキストとそこに随伴する否定的イメージからの影響があり、それらを前景化させることで、無数にあるはずのコンテキストが後景に埋もれ、異なる別の新しい理解への思考経路が閉ざされる。この問題意識に基づき、石黒は「多様なコンテキスト間を意図的に移動することによって、単純化のプロセスを解きほぐし、現象の多面的理解の一助となる」（p. 33）ことを目的とした「コンテキスト・シフティング（コンテキスト間の移動）」（context shifting: CS）を提唱した。CSは「その実践者が、自己、他者、自他の関係性を含む眼前に立ち現れる現象を単純化し否定的に捉えている状態から抜け出し、新しい視点や理解を得るために、複数の異なる認知的枠組み（具体的にはコンテキスト）へ移動すること」（pp. 36-37）と定義されている。さらに石黒は、CSを利用する人を取り囲むマイクロ、メゾ、マクロの3つのレベルの潜在的なコンテキストの存在を図式化して提示している。マイクロにはコミュニケーションにおける個別的な状況、メゾには組織タイプや職務グループにおけるコンテキストが含まれ、マクロには属性や地理的配置などのカテゴリーに加え、人びとによって用いられる「概念（共有知識）」がコンテキストとして含まれる点が特徴的であり、グローバル・トピック（感染症、環境問題、テロリズム、国際援助等）と形而上学的トピック（倫理、超自然、自由、新自由主義等）が示されている。

石黒のCSの概念が異文化間能力として有益な点は、無意識で自動的に選択したコンテキストから離れることによって、様々なコンテキストを前景化させ、そこから見える景色や、感じ取られるリアリティを変えられるところにある。そのポイントを概

念的に理解するだけでなく、異文化間能力として活用できるようになるには、体験的に学ぶことが有効と考え、筆者はケーススタディを用いた「コンテキスト・シフティング・エクササイズ (CSエクササイズ)」を開発した。

3. コンテキスト・シフティング・エクササイズ

CSエクササイズの全掲を文末の付属資料に添付する。ここでは、開発の意図と教育のねらいを主とした説明を行いたい。

石黒 (2016) は「多様で異質な他者、不慣れな現象を目の前にした人びとが、無意識に単純化した認知プロセスに陥ってしまうケース」(p. 33) を想定したとき、そこにCSが役立つと位置づけている。したがって、エクササイズで使用するケースは、自他を対立する社会的カテゴリーで分け、単純化し、否定的に評価しているエピソードとすることにした。参加者にとって身近で取り組みやすいケースを作成するために、このエクササイズの導入を予定していた「異文化間コミュニケーション」の科目を履修する学生¹に、あらかじめ上記のようなエピソードを記述してもらった。複数の学生が言及していた「中国人や韓国人と日本人と一緒に思われるのが嫌 (特に海外で)」と「スポーツ強豪校とその生徒に対し、自分たちとは違うと敬遠してしまう (劣等感やあこがれ・嫉妬との関連で)」を題材にケースを作成し、実施するときに参加者がどちらかを選択することができるようにした。

エクササイズはステップ1からステップ3で構成した。考え方の背景には構成主義と認知的複雑性の理論的枠組みがあり、カテゴリーのより複雑な分化と意味の再構成に焦点を当てながら、自他間の境界の引き直しとしてCSできるようにすることを試みた。また、初期状態のコンテキストから離れ、柔軟で新しい発想を促す設問を考案するために、「ソリューション・フォーカスト・アプローチ」(e.g. De Jong & Berg, 2013 桐田・玉・住谷訳 2016) を参考にした。原因追求よりどうありたいかを重視する解決志向の短期療法で、本当に全てが否定的なのかを再検証する「例外探し、いいところ探し」や、望ましい状況が既に起きている未来の状態から眺める「ミラクル・クエスチョン」の要素をCSエクササイズには取り入れた。

まずステップ1では、デフォルトで前景化されたコンテキストを検証し、否定的な認識世界の枠組みで使用されているカテゴリーを意識化する。主人公が相手をどのような人物と位置づけ、そのとき自分がどのような位置取りをしているか尋ねることによって、このケースの初期状態の設定を社会的アイデンティティの観点から明確化してもらおう。参加者の思考が学習の目的に沿った展開になることを援助するために、設問文は一文で済ませず、別の角度からの表現や言い換えを複数用いるようにした。

ステップ2では、登場人物の多面性に目を向けることで初期状態に揺らぎを与える。「例外探し、いいところ探し」を応用した。

ステップ3では、主人公と相手役の双方が交わりあえる新しいコンテキストを探することを目的とした。「ミラクル・クエスチョン」の発想を応用し、既に両者の間につながりが生まれている可能性を「妥協、共闘、円満、意外性、忘却」の5つのパターンで想定した。妥協を「しゃーないか案」、共闘を「共に立ち上がろう案」、円満を「ニコニコ案」、意外性を「意外性ポロリ案」、忘却を「そういえば忘れてた案」と命名し、参加者への説明文ではそちらの名称のみを使用した。抽象的ではなく具体的で、より直感的・感覚的にやってみてもらいたいという意図があった。

単純化して否定的に評価している現象に新たなコンテキストを創出しようとしたとき、「理論的にそうなるから」、あるいは、「倫理的にそうあるべきだから」と理性的に考えたとしても、合理的な判断や視野の広がりなどの認知面において学習者には学べることが多い。しかし、たとえ積極的に同じ仲間に入れることが倫理的に正しく、また、グローバル規模で互いにつながった関係として見るのが合理的な判断であろうとわかっていたとしても、「そうなりたい」や「それも有りかも」と学習者自身が思う気持ちのないまま、意識的な努力の力に頼らせることは、「社会的望ましさ」のバイアスがかかった回答を引き出し、学習者の中に不快感や「やらされ感」を招く恐れがあると考えた。したがって、ステップ3では、できるだけ空想の世界で自由になり、可能性や別のストーリーを思い描きながら感情移入することによって、認知面に加え情動面にも働きかけることができるよう工夫した²。新しいストーリーを立ち上げ、対立したカテゴリーの解消やカテゴリーの新たな組み換えを経験することを通して、自らが境界をつくっている主体であり、自分の見方は自分を変えられるという効力感を実感してほしいという期待も込められた。

4. CSエクササイズの実践とその結果

4.1 CSエクササイズの導入手続き

筆者は大学において「異文化間コミュニケーション」を2017年度に2クラス開講した。第29回目の授業で各クラスにおいてCSエクササイズを実施した。まず、石黒(2016)の抜粋版の論文を教材とする学習を約30分間行った³。エクササイズの説明とペアワークによる実践は、残りの60分で行った。最初にペアで話し合い、ケース1と2のどちらに取り組むかを決めてもらった。

4.2 参加者によるエクササイズへの回答の収集

当日出席し、エクササイズに参加した学生は、41名と27名の計68名（女性42名、男性26名）で、台湾と中国からの留学生各1名を含む。ケース1を選択したのは49名、ケース2は19名であった⁴。参加者にはCSエクササイズの全体が記入された説明用紙のほかに、ステップ1～3の回答を書き込める記入用紙兼アンケート用紙が配られ、授業の終わりに回収された⁵。記入用紙兼アンケート用紙の設問は、付属資料に掲載したCSエクササイズにおける各ステップでの問いと振り返り（計10問）で構成される。

4.3 回答の分析結果

各ステップの問いに対する参加者の回答をエクセルに入力して整理した。分析による理論化や仮説生成ではなく、エクササイズによりどのような学習が行われているか確認することを目的とするため、ここでは10問への自由回答記述をそれぞれ整理した結果を簡略に示すことにする。ステップ1～3への回答は、参加者が創出したアイデアであり、可能な限り多様なバリエーションや少数派の意見までを提示できるのが理想的ではあるが、紙幅の制限もあるため、複数の参加者から類似した回答の記述があったものを中心にまとめる⁶。回答の結果について、ステップ1を表1、ステップ2を表2、ステップ3を表3、振り返りを図1にまとめ、以下に順に記す。

4.3.1 ステップ1の結果

ステップ1の回答では、初期設定の世界観で相手をどのように位置づけているか、そのとき自分はどの位置取りをしているかが示された（表1）。

表1 ステップ1（初期設定の明確化）の結果

相手を誰として見ている	その場合の自分は誰
<p>ケース1 周さんは… * マナーの悪い中国人 * 爆買する中国人 * ものすごくステレオタイプの中国人 * TV・ニュース・SNSで見るマナーが悪く常識のない中国人 * お金持ち * 金遣いが荒い</p>	<p>ケース1 トシコさん自身は… * マナーのよい日本人 * 常識人 * 礼儀正しい日本人 * 同じ留学生なのに、全く違う人としてランク付け（1位アメリカ、2位日本、3位中国） * 自分の方が優れている * 上から目線 * 同じアジア人と見ていない</p>
<p>ケース2 A校のケンジは… * 強豪校の選手 * （自分より）人間的にも強い・優れていると（タロウが）見えている人 * 近寄りがたい人 * 偉そう * 強いことを理由に調子に乗っている人</p>	<p>ケース2 タロウ自身は… * 弱小チームの一員 * やる気がない * 強豪校にバカにされている人 * 弱い * マイナス思考のアンテナセンサーが発達 * 小心者 * いてもいなくてもよい * 恐怖心を抱いている * 文武両道</p>

4.3.2 ステップ2の結果

ステップ2の回答からは、「いいところ探し」をキーワードに同じ人物の別の側面に

着目することで、互いの立ち位置にどのような変化がもたらされるかがわかる。表2を整理すると、2つのケースに共通して、1)「長所や秀でた能力など肯定的な個人の資質」、2)「趣味や立場における共通点」、3)「思い込みに反した事実の存在」のあることがわかる。また、これらが前景化されたコンテクストにおいて、1)では個人の内面を見ることや、懂れること、仲良くしたいと思うこと、2)では悩みや関心事を共有することや、話せるようになること、3)では構えを解くことや、前向きになれること、等の認知がもたらされていた。したがって、「肯定的な個人の資質」、「共通点」、「思い込みに反した事実」が存在するかもしれないことに着目し、それらを意識的に探すことが有効と認知されていることがわかった。相手の中にそのような別の顔が見えたとき、初期設定のコンテクストに揺らぎが生じ、自他の位置取りが変化している。

表2 ステップ2（キャラクター性の別側面への着目）の結果

相手をどんな人として見るのが可能か	その場合の自分はどんな人
<p style="text-align: center;">ケース1 周さんは…</p> <p>*おしゃれ *音楽に詳しい *社会的 *ファッション好き *クラスの人気者かも *中国の常識内では常識的な人かも *実は中国の友人への土産を買っていたから友人思い *アメリカ好きな女の子 *アニメ好きだから日本のアニメも好きかも *アメリカの大学へ入学希望だから頭いい *アメリカの大学へ入る意思がはっきりある</p>	<p style="text-align: center;">ケース1 トシコさんは…</p> <p>*同じアメリカに興味 *お互いオシャレ *アメリカ長期滞在初めて同士 *スタイルよくて懂れの存在 *音楽やファッションを教えてもらう *共通の好きなブランドで話が盛り上がる *ファッションのことで気になって話をしてみたくなる *仲良くなりた い *前向き *偏見でなく内面で見られるようになる *カテゴリーでなく1人の人として接する *同じアジア人として悩みを打ち明けられる</p>
<p style="text-align: center;">ケース2 A校のケンジは…</p> <p>*強くて頼りがいがある *強いから尊敬 *参考のできるプレイヤー *明るい *強いから自信がある *リーダー格 *実はタロウと問題意識を共有したいと思っている *部活に対して一生懸命</p>	<p style="text-align: center;">ケース2 タロウ自身は…</p> <p>*懂れの選手、*切磋琢磨し合う同士 *勉強や恋愛でアドバイスできるかも *勝手に近寄りたいたいと思っているだけかもしれないから仲良くなれるのでは *一生懸命やっているのは同じ *ケンジに懂れる素直な青年になっていそう</p>

4.3.3 ステップ3の結果

ステップ3では、両者が交わりあえる新しいコンテクストを探すことを目的に、両者の間につながりが生まれる可能性を「妥協、共闘、円満、意外性、忘却」の5つのパターンで考えてもらった。その結果を表3に示す。

表3の結果から示唆されることを以下に整理する。

「しゃーないか案」(妥協)の結果からは、1) 共通の課題・問題を共有する、2) 共通の敵がいる、3) 好意を示される／好意を持つ、4) 外部的な力により同じカテゴリー

表3 ステップ3 (CSによる包括性・連携性の創出) の結果

① 「しゃべらないか案」	<p>ケース1 * 授業のペアワークやグループ活動 * 強制的/ランダムにペアにされたとき * 同じ班で一緒に頑張らないと落第するとき * 難しい宿題が出され周さんに教えてもらえないとき * 留学生生活で困ったとき * 道に迷ったとき * ゴキブリと一緒に退治 * 長期滞在が初めての同士の不安を消すため協力 * 爆買いする周さんが幸せそうとき * 周さんから歩み寄ろうとしているとき * 好きなところが嫌な気持ちに勝る程見つけたとき</p> <p>ケース2 * 1つの場所で同時に練習せざるを得ないとき * ボールが1つしかないとき * エレベーターやトイレなどたまたま同じ空間で過ごさなければいけない状況 * チームを混ぜて試合をするとき * 合同練習で監督から二人でペアを組めと言われたとき * 練習時間を区切り、互いに分けて徹底する * ケンジはタロウに野球を、タロウはケンジに勉強を教えるとき</p>
② 「共に立ち上がろう案」	<p>ケース1 * 授業のペアワークやグループ活動 (力を合わせて頑張る) * 宿題/英語がわからないとき * 英語ができない同士が店員に注文するとき * 皆の中で二人だけ何かができない * 震災など災害にあったとき * 目の前に困っている人 (倒れた人) がいるとき * 共通の友人が困っているとき * エレベーターに二人が閉じ込められたとき * 他の人たちにアジアの国々の違いを説明するとき * アジアについてプレゼンするとき * アジア人に対する差別があったとき * 他の外国人が周さんやトシコさんに近づかないとき * 慣れない土地での観光/生活で助け合いが必要 * 共通の目的のために協力し合おうとするとき (長期滞在、プレゼン、無人島サバイバル) * ルームメイトになって一緒に暮らす</p> <p>ケース2 * 他の強いチームと共に協力して戦う * 辛いメニューを共に乗り越える * 合宿を成功させる * きれいに使う * 消灯時間を守る * 重い荷物を運ぶ * たがいに大きな大会で優勝目指して頑張ろうという場合 * 災害発生で練習中止せざるを得ない</p>
③ 「ニコニコ案」	<p>ケース1 * 共通の趣味 (音楽・ファッション) について話す * 互いに好きなことについて話す * ダンス (トシコの趣味) で周さんの好きな服や音楽を使う * ダンスイベント (ダンスと音楽で話が弾む) * 自己紹介をする場で共通の関心事が見つかったとき * 同じ女優やモデルが好きだとわかったとき * 一緒に笑いを見る * 先生のギャグにウケる * 飲み会・食事会・BBQ * カラオケ * 動物と触れ合う * 猫カフェに行く * 買い物や、レジャーを楽しむことで、知らなかった互いの性格を知る * 海外あるあるに遭遇して文化の違いから失敗してしまったとき、恥ずかしい思いをしたとき</p> <p>ケース2 * 野外炊事・キャンプファイヤー * 一緒にパーティやゲーム * チーム混合でのレクリエーション * 部屋帰りにどこかで食べて帰る * お風呂・ご飯の時間を一緒に過ごす * 一緒にの部屋で寝る * 疲れた後に合宿の食事がおいしくてお互い共感できるとき * 強いチームに勝ったとき * プライベートについて話す * 練習に必要なものを互いに忘れてアハハとなる</p>
④ 「意外性ポロリ案」	<p>ケース1 * 実は周さんがお金をコツコツ貯めて買い物をしていて * 一緒に買い物に行って、意外と爆買いしなかったとき * 金持ちのイメージだったが、アニメ好きという庶民的なところもあると知ったとき * 実はアニメおたく * マナーが悪い=不愛想と思ったら、社交的で気さくに話してくれたとき * (周さんが) 落ちているごみを拾っていたり、周りの意見を聞いたりしていたとき * 実は猫好きで、猫カフェでばったり会った * 驚いた姿がかわいかったとき * 留学の目的や将来の話題になると、周さんの考えの深さを知り意外な面が見られる * 周さんがアメリカ人から日本語で「コンニチハ」と挨拶されるのを目撃 * 実は二人とも異文化のことで悩んでいた</p> <p>ケース2 * 試合中のマナーはよい * みんなで風呂に入ったとき * 女の子のことで悩みがある * プレー中かっこいいのに寝るとき一人でトイレに行けないなど意外な面が見えるとき * 練習中はリーダーシップがあり怖そうだが、練習後、実は他の部員からいじられていたとき * ケンジが怒られているときに弱いところが見られる * ケンジが忘れもの大目、よくつまづく * ケンジの陰での努力を知ったとき、許してしまう</p>
⑤ 「そういうえは忘れてた案」	<p>ケース1 * 日本語でも中国語でもない英語で話しているとき * 留学生全員で催し物に協力して取り組み、成功に終わったとき達成感が先にきて違いや対立を忘れている * プレゼンを成功させようと二人の成功のイメージが一緒になりそこに向かおうと取り組んだとき * 猫カフェで猫とたわむれることに夢中になっている * 語学の話で、お互いに苦労や夢を語ったとき * 同じチームでダンスを作って発表するようになったら、練習のとき互いの対立を忘れている * 互いに長期滞在が初めての同じ留学生という立場に立ったとき * 課題が終わりそうになくピンチの状態助け合うとき * やるべきことで余裕がないとき * 一緒に買い物をして自分も同じように爆買いしていたとき * 雑談や悩み相談、授業が一緒などで、ふといつの間にか仲良くなっている</p> <p>ケース2 * 一緒にチームでの試合でファインプレーが出ると盛り上がり過ぎてハイタッチをし、互いの対立を忘れている * 困難にぶつかったとき (対立を気にかけている場合ではない) * 食べてもお腹が空いてご飯のことしか考えない * 食べることで頭がリセットして話が進み合い合そう * スキー・山登りなど一緒になって体を動かす活動をしているとき * 料理作りなど共同作業 * 悩みを言って同情しあう、彼女の愚痴を言い合うなどしているとき</p>

(ペアやグループ)に入る、5) 限られた資源を共有する、6) 同じルールに従う、7) 補完的に補い合う関係になる、等のコンテキストヘシフトしたときに、妥協やあきらめだとしても、つながり(包括性・連携性)を見いだせると認知されていることが示された。

「共に立ち上がろう案」(共闘)の結果の示唆として、1) 共通の課題・問題を共有する、2) 共通の目的を達成しようとする、3) 共通の弱点を克服しようとする、4) 危機的状況を乗り越える、5) 苦労をわかちあう、6) 両者に共通の枠組み(e.g. ケース1のアジア)を第三者に向けて表示する、7) 共に弱者の立場になる、等のコンテキストヘシフトしたときに、互いに協力せざるを得なくなり、そこからつながりが生まれると認知されていたことがわかる。

「ニコニコ案」(円満)の結果より、1) 共通の好きなことを楽しむ、2) 何かを一緒に楽しむ、3) 相乗性(異なる性質を組み合わせる効果)を楽しむ、4) プライベートをさらけ出すような生活の場を共有する、5) 一緒に恥をかく、6) 未知の側面を垣間見る、等のコンテキストヘシフトした時に、ニコニコと思わず笑顔になってつながりあえると認知されていることがわかった。

「意外性ポロリ案」(意外性)の結果より、1) ステレオタイプに反した言動に触れる、2) 当初の印象に反した言動に触れる、3) 恰好悪いという評価につながるような一面に触れる、4) ドジさ・無防備さに触れる、5) 敬意を感じさせるような一面に触れる、等のコンテキストヘシフトした時に、意外性に触れ、そのことがつながりを生み出すと認知されていることが確認された。

「そういえば忘れてた案」(忘却)の結果より、1) 共通した第三カテゴリー(e.g. 留学生、ダンスチーム、同じチーム)で同じ目的のために邁進する、2) 達成感を共有する、3) 高揚感を共有する、4) 余裕がないほど追い込まれている、5) 何かに夢中になっている、6) 相手と似たようなことをしてしまっている自分に気づく、7) 悩みや苦労に共感する、8) 一緒に体を動かす活動をする、等のコンテキストヘシフトした時に、互いを隔てる壁が意識から消えてつながりが生まれると認知されていることが示された。

4.3.4 振り返りの結果

振り返りについては、KJ法(川喜多, 1986)と同様の方法でカテゴリー化し分類したが、データを文節で細かく切片化していない点がKJ法とは異なる。1行から数行のセンテンスによって構成される回答の主旨に注目し、それらを分類の単位とした⁷⁾。主旨単位で意味の類似したもの同士を集めてカテゴリー化し、その内包的意味を示す名称をつけた。その結果、図1のようなカテゴリーとサブカテゴリーを得た。

1 状況が関係性を変える

1-1 本質よりも状況変化が関係と感情に変化をもたらす

「苦手な人でも、同じ空間で同じ目的があると自然と一緒に達成しようとする。人間て意外に単純」、「対立していても、一緒にプレーをすると自然と一緒に盛り上がっている」、「状況・場面を思い浮かべていくうちに対立どころか仲良くできる、ポジティブな展開はいくらでもあると実感」「一見この文(エクササイズの設定)だと見方を変えて考えるのは難しそうと思ったが、角度、視点を変えるだけで解決策や良い方向が生まれることに驚いた」

1-2 理解だけでなく状況変化が関係に影響を与える

「価値観の共有や理解が関係をよくすると思っていたが、場面や状況、場所を変えるだけで互いの達成感をすんなりと受け入れられる」、「ステレオタイプを解消するには、相手を理解するしかないと思っていたが、対立していたことを忘れさせる状況や楽しいことをする状況でも変えられる」

2 関係構築に開かれた多面性に気づく

2-1 人種・国カテゴリーよりも個人に目を向け関係構築する

「中国人の前に1人の人間で、もっとパーソナルな性格や特徴を知るとより深くきちんと向き合える」、「自分も人種的な面で勝手にカテゴリー化し、深く関わり知ろうとせず距離を置きがちだったが、カテゴリーでなく個人の特徴に目を向け共通点を見つけることは人間関係を築く上で大切だと感じた」

2-2 個人の中の多様性を求めて関係構築する

「悪い部分に注目し良い部分に背を向けていた。印象が悪い人を見ても他の一面を意識的に見つけて行きたい」、「視点を変えれば意外な面が見えてくる。今までで見ようとしなかっただけでそれは元からあったかもしれない」、「一面だけを見て仲良くなる機会をたくさん失ってきたと気づけた」、「苦手な子に対し他に共通する部分探し前景化したら、考え方が変わり、仲良くなれる。最初に感じたものだけでなく、他に何かないか探すと交流関係を深められる」

3 共通点の存在や状況変化が先入観の誤りに気づかせる

「状況や場面が変わることでラベリングやステレオタイプとは実は異なると分かった」、「定かでないイメージを偏見として持っていたも、何らかの状況で関わると、自分にとって害の無いことや、もしかしたら偏見とは全く違う人格を持った人として見れるようになる」、「ステレオタイプを持っていたも、一緒に何か一つのことに向かってやるなど、共通点が1つだけあったらステレオタイプが消え、偏見なしに関わっていることが無意識にある」

図1 振り返りの分析結果

5. 考察

CSの成功をどのように測定できるかについて、石黒（2016）は「CSの実践により、一時的に前景化された理解を相対化でき、新しい理解を得た時点で、CSは一応成功したといえる」（p. 39）と述べている。CSエクササイズの結果は、参加者が想像力を使いながら次々に異なるコンテキストへ移動するにつれ、初期状態で一元的だった理解がその都度変化し、新たな視点と理解の獲得へと結びついたことを示していた。石黒はまた、CSの実践によって、「自分が何を知らないか、見ていないかという『無知の知』のような理解を得られ、それがまだ見えていないものを見ようとするという多面的現象理解への好奇心を育む」（p. 39）とも述べている。苦手意識や否定的感情、あるいは、ステレオタイプや偏見などにより硬直化したコンテキストの前景化は、視野を狭め、関係構築の機会を喪失させるという気づきが参加者にはあった。そのことから、参加者は多面性に目を向けることを意識するようになっていた。以上より、CSエクササイズは石黒のCSの概念を能力としてトレーニングする学習に適していると判断できる。

CSエクササイズの重要な効果として、振り返りの結果における「**状況が関係性を変える**」への気づきが挙げられる。これは、状況が変わると無理して意図に頼らずとも関係性には変化が生まれ、心理的にもまた変化が生じることへの気づきである。また参加者からの言葉の中には「それならできるかも」という可能性を信じるような気持ちも読み取ることができた。もし、CSの概念を使わずに、単に「登場人物の関係をよくするにはどうすればよいですか？」と関係改善を求める問いを投げかけたなら、ケースの主人公が見ているリアリティに漂う否定的感情、怒り、恐怖心を見捨てるか、それらを理性や意志の力で変える努力が参加者には必要となったであろう。そして「もっとコミュニケーションを取るべき」「互いを理解するべき」「歩み寄るべき」といった型通りの回答を得る結果になっていたかもしれない⁸。当初の主人公の視点から離れ、妥協する、共に笑う、共に立ち上がる、意外な側面を垣間見る、互いがどうであるかなんてどうでもよくなる等が成立してしまう多種多様に異なるコンテキストを想像し、そこに立ち上がるストーリーの世界を思い描くCSを体験したからこそ、「関係構築の可能性はある」という確信がもたらされたと解釈できる。振り返りの中の「こうやって一緒に騒げるかもしれないと考えていたら、いつの間にか私の中の『マナーの悪い中国人』という設定は居なくなっていた（原文ママ）」（2年生・男）や「自分が前から持っているイメージが変わり今後のその人へのイメージが変わる。そして、親しみやすく感じ、その人たちと関わりたいと思う気持ちがわく」（2年生・女）という振り返りのコメントからもこのことが窺える。エクササイズは現実の体験ではない。しかし、倫理的にあるべき関係の姿に近づけようとしたり、理解や

意志の力で関係性を変えようとしたりしなくても、コンテキスト次第では関係構築も可能という気づきは、参加者を勇気づけたとも言え、CSエクササイズ学習の効果として重要である。

さらに、「状況が関係性を変える」の「本質よりも状況変化が関係と感情に変化をもたらす」という気づきは、関係論的な異文化間能力を論ずる渡辺（2002）の「関係は本質に先立つ」という主張にも通ずることを指摘しておきたい。海外への技術移転における日本からの技術指導者の研究（渡辺，1983）に基づき、異文化適応がうまくいっていないと本人が思っている異文化の人たちとの関係がよい場合もあるとして、渡辺は主観的な自己評価と実際との関係とが必ずしも一致しないことを示した。ここでの「関係がよい」とは、自分や相手が不適應感に悩んだり、ショックを受けたりしているかどうかに関わらず、お互いの存在を否定したり無視したりしないようなやり取りが相互にある（渡辺，1991）ことを言う。コンテキストには状況も関係性もどちらも含まれる。渡辺の指摘した「関係は本質に先立つ」は石黒（2016）の提示したCSの概念においてまさに重視されていることであり、さらにエクササイズの参加者が「状況が関係性を変える」、換言すると、「状況は関係性に先立つ」可能性を認識したことの意義は大きいと言える。

ステップ3では、様々な状況や場面、また、個人の中の多様性に向けても、参加者の発想が飛ばされていた（「関係構築に開かれた多面性に気づく」）。このように想像力豊かに実践することがCSエクササイズのポイントとも言うことができる。振り返りの中には、「私も中国人として見られるのも嫌だし、中国人はマナーが悪いとっていて、もし同じクラスにいたら、距離をおいていたと思った。しかし今日、新たな顔を探すということをして、ベストな案などを考えていたら、マナーの悪さなどは一部分で、仲良く、距離を縮めることは簡単にできると思った。クリエイティブに考えることは、社会を生きていく上で大切だと思った」（2年生・女）と述べるコメントがあった。しかしそれはエクササイズ内に限った話であって、想像と現実世界での実現とは別問題という冷静な声もあろう。その一方で数多くの人が想像と実現の連関性について言及しているのも事実である。たとえば、画家のパブロ・ピカソによる“Everything you can imagine is real” や、『月世界旅行』や『海底二万里』などを書き科学者にも影響を与えたと言われる小説家のジュール・ヴェルヌによる“Anything one man can imagine, other men can make real” は名言としてよく知られている⁹。また、野口整体の創始者で1940年代から整体という言葉を広く知らしめ、身体と心の連関作用による個人の感受性の癖を「体癖」として体系化した野口晴哉の語録の中には、「意志を頼るな 空想せよ…空想は 現実の最初のスタート 空想に向上しなければ 現実に向なし」（野口，2000, pp. 94-95）がある¹⁰。参加者が空想の世界でトライアルとして思い描いた多種多様なコンテキストと、そこで経験したバーチャルな実践の記憶

が、新たな現実を構成するための糧になると考えることもできる。

CSエクササイズの実践には、ナラティブ・セラピーにおいて、脱構築し、リフレーミングしながら人生のストーリーを書き換えるプロセスとの類似性も指摘できる。White (2016 小森訳2018)¹¹によると、ナラティブ・セラピーの実践が援助しているのは、人びとが自分の人生形成において積極的な役割を果たすことができるという感覚や、好みの結果を生み出すことができるという感覚、つまり「人生のお客さんモード」(p. 53) から脱却し「行為体」(p. 52) としての感覚を達成することである。振り返りの中の「自分が世界を作っていると実感した。自分の物の見方、考え方によって相手は変わってなくても自分はまるで別人のように感じる」(2年生・女) というコメントはこの感覚を窺わせる。同様に、「状況が関係性を変える」の気づきも「関係構築に開かれた多面性に気づく」も、関係構築できる多様なコンテキストに気づくのみならず、それらを創り出した自己への気づき、および、そのような選択もできることへの気づきであることから、現実を構成する主体としての自己覚知であるとも言えよう。

6. おわりに

CSエクササイズの実践者による報告から、このエクササイズが石黒 (2013, 2016) の提唱したCSの概念を異文化間能力として学ぶために役立つことがわかった。特に、自動的に最前列で前景化してしまうコンテキストの存在を意識化すること、一人の人間の中に多面性を見出すこと、相手をよく理解できないままでもコンテキストを変えれば関係構築が可能であることに気づくことが、参加者の学びとして達成されていた。ある現象について、より複数の次元を用い、より複雑で多面的なものとして捉えることができるようになったということは、CSエクササイズが認知的複雑性の向上に役立つことを示唆すると考えられる。

今後の課題としては、CSエクササイズをより効果的に実践できるように、参加者の取り組みを観察し、参加者からのフィードバックを得ながら、やりづらさの出る部分を改訂していきたい。石黒 (2016) によると、CSを用いる人の認識における一元化と硬直化の度合いがCSの有効性に影響を及ぼす。今後のチャレンジとしては、拒否感や妄信的な自己肯定 (e.g. 我こそ正義) が強まってしまい、認識の一元化や硬直化の度合いが高くなるような対象を前景化したコンテキストに、CSがどうアプローチできるかについてもさらに考察を深めていきたい。

謝辞

本稿に掲載したCSエクササイズは、第32回異文化コミュニケーション学会年次大会で実施したワークショップ「コンテキストシフトを体験する—構成主義的学習に適したエクササイズの開発—」の参加者からのご助言を基に改訂した版であり、それをういた実践についての報告である。石黒武人氏（武蔵野大学准教授）、古家聡氏（武蔵野大学教授）、鈴木有香氏（明治大学兼任講師）をはじめワークショップ参加者の皆様には心よりお礼を申し上げます。

注

- ¹ 筆者は関東の私立大学の文系の学部において「異文化間コミュニケーション」（4単位、授業回数90分×30回、対象2年生以上）の科目を2017年度秋学期に2クラス開講した。履修者の中に留学生2名（台湾・中国）が含まれる。今回のエクササイズの参加者はこの科目の履修者である。
- ² 石黒（2016）では理性的なアプローチが採られ、例えば地元志向の限定的な思考を相対化させて、地球規模のつながりへCSすることなど、グローバル市民性の育成に役立つことが述べられている。マイクロ・メゾ・マクロの各レベルにおけるカテゴリーを検証することによって、学習者は試したことのない枠組みやカテゴリーとのつながりに目を向け、新たなコンテキストを顕在化させ、そこから多くを学ぶことができる。本論文は理性的なアプローチを否定するものではなく、その教育効果を認識した上で、新たに体験的に学習する方法を提示している。
- ³ 最初のページから8ページ目まで（pp. 32-39）を取り上げ、筆者があらかじめキーワードやポイントとなる箇所に下線を引き、余白にその解説や例を書き加えた状態の抜粋版を使用した。石黒（2016）の論文の完全版はインターネット上でダウンロードできることを参加者に伝えた。
- ⁴ それぞれのクラスで全体の人数が奇数であったため、ペアのほかに3名による構成が1組ずつできた。そのためケースの選択人数がペアワークであっても奇数となっている。
- ⁵ 記入用紙がそのままアンケート用紙となっていることを用紙の上部に示し、アンケートの主旨とデータの取り扱いについて記載した。その上で、アンケート協力に同意するかしないかを選択できるようにし、協力しない意志を尊重すること、協力しなくても成績評価に影響を及ぼさないことを明記した。全員からの同意を得ることができた。
- ⁶ ペアワークだが、回答の記述は各自で行った。話し合っ二人で思いついた回答であっても、記述においては目のつけどころや解釈、表現の仕方など、異なる書き方のものが多かった。しかしながら、二人で考えた案は同じであるため、同様の回答が少なくとも2件はあることが最小単位であることに留意した上で、複数のペアが類似したテーマに言及しているところに注目した。
- ⁷ 回答は最小で2行から最大で6行であり、大半が3行前後であった。ほとんどの場合、1つの回答の中では1つの主旨に基づく意味で構成されていたが、中には前半と後半で2つの主旨に分かれると判断されるものもあった。その場合は2つに分けた。
- ⁸ 実際に筆者が異文化間コンフリクトのケーススタディを授業で取り上げた際に、このような問いを投げかけると、こういった回答が最も多く引き出されるという経験をしている。異文化トレーニングとしてケーススタディをファシリテートするアプローチには、CSの他に、一例として「独り語りの物語：エンパシー訓練—異なる枠組みから眺める練習—」（山本，2001）が挙げられる。
- ⁹ 別人によるものという説もあるが、一般的にはジュール・ヴェルヌの言葉として広く知られている。SFの父と呼ばれるジュール・ヴェルヌの想像は、宇宙開発の実現など多くの人びとに影響を与えたと言われている。
- ¹⁰ 整体協会（現在は公益社団法人整体協会）が編集する「月刊全生」という雑誌に1962年～1975年にかけて掲載された野口晴哉の語録、および、妻の昭子が選んだ晴哉の十代から晩年までの随想をまとめたものが『風声明語』であり、本書はその第二集である。
- ¹¹ 本書はMichael Whiteの一連の過去の論考やインタビューを集めて構成されている。引用箇所はこの本の第一章「脱構築とセラピー」からである。参考として、第一章のオリジナルの原稿「Deconstruction and therapy」の初出は1991年のダルウィッチ・センター・ニュースレター（3号，pp. 21-40）と明記（p. ix）されていることを付記しておく。

引用文献

- 石黒武人 (2013) 「異文化コミュニケーションの教育・訓練」石井 敏・久米昭元・長谷川典子・桜木俊行・石黒武人『はじめて学ぶ異文化コミュニケーション 多文化共生と平和構築に向けて』有斐閣選書 207-230
- 石黒武人 (2016) 「現象の多面的理解を支援する『コンテキスト間の移動』に関する一試論—グローバル市民性の醸成に向けて—」順天堂グローバル教養論集1: 32-43
- 川喜多二郎 (1986) 『KJ法：混沌をして語らしめる』中央公論社
- De Jong, P. & Berg, I. K. (2013) *Interviewing for solutions* (4th Ed.). Belmont, CA: Thomson, Brooks/Cole. (ディヤング, P. & バーク, I. K. 桐田弘江・玉真慎子・住谷裕子 (訳) (2016). 解決のための面接技法第4版—ソリューション・フォーカスト・アプローチの手引き— 金剛出版)
- 野口晴哉 (2000) 『風声明語2』全生社
- White, M. (2016) *Narrative Therapy Classics*. Adelaide: South Australia, Dulwich Centre Publications. (ホワイト, M. 小森康永 (訳) (2018). ナラティブ・セラピー・クラシックス—脱構築とセラピー— 金剛出版)
- 山本志都 (2001) 「共感 (エンパシー) ——相手の“違い”や“よくわからなさ”と付きあっていくためにできること——」八代京子・荒木晶子・樋口容視子・山本志都・コミサロフ喜美『異文化コミュニケーション・ワークブック』三修社 127-134
- 渡辺文夫 (1983) 「異文化間関係論 序」文化と人間の会 (編)『異文化との出会い』川島書店
- 渡辺文夫 (1991) 『異文化のなかの日本人 日本人は世界のかげ橋になれるか』淡交社
- 渡辺文夫 (2002) 『異文化と関わる心理学 グローバリゼーションの時代を生きるために』サイエンス社

付属資料

コンテキスト・シフティング・エクササイズ (全掲)

[ケース1：トシコさんの葛藤]

トシコさんは大学1年生。8月と9月下旬までの約7週間、念願だったアメリカへの語学留学を実現した。英語能力別のクラス分けテストでは上位クラスに入ることができた。クラスには日本の他に、フランス、ドイツ、フィンランド、中国、韓国、インド、サウジアラビア等から来た留学生がいる。

トシコさん (18歳女性)：島根県出身。高校までテニス部。今は東京の大学でダンスサークルに入っている。髪をピンクがかかったベージュに近い明るい色に染めている。アメリカの学園もののドラマを見るのが大好き。明るく正義感が強いとよくいわれる。海外に長期滞在するのは初めて。

周さん (18歳女性)：上海出身。趣味は音楽を聴くことでアメリカのロックやR&Bなどを幅広く聴いている。ファッションに興味がありおしゃれ。語学クラスで力をつけてアメリカの大学に入学する予定。アニメが好き。話好きで社交的とよくいわれる。海外に長期滞在するのは初めて。

トシコさんの話：

「たまにお店の人がニーハオって中国語で挨拶してくるんだけど、困るんだよね。私は中国人じゃないのに。アメリカ人から見たら同じに見えるのかな。同じクラスに中国からの留学生で周さんて人がいるんだけど、このあいだ大きな紙袋を何個も肩に下げて高級デパートから出てくるのを見たのよね。やっぱり！と思った。テレビやネットで中国人の爆買いや公共マナーの悪さについてよく話題になっていたじゃない？日本人は礼儀正しくてマナーがいいのよね。Kさんは悪い人じゃなさそうだけれど、クラスでKさんと一緒にいると、同じという目で見られそうだから、近づかないようにしているの。まあそれもそれで、本当にいいのかどうかかわからないんだけどね…。」

[ケース2：タロウさんの怒り]

タロウさんは高校2年生。

タロウさんの話：

「ボクの入っている部活のチームは、正直なところあまり強くはない。でも、皆が一生懸命に練習に励んでいるし、勉強とも両立させている。今回、強豪校で有名なA校と、弱小チームの自分たちの学校が、同じ合宿所や練習場を共有して夏季休暇の間、練習することになった。合宿所のレストランやラウンジで、食事時間や夜に強豪校の選手たちと一緒にすることも多いが、近寄りたがたい。A校の選手らはラウンジを我が物顔に使って幅をきかせており、ボクたちが横を通っても一瞥（いちべつ）もしない。顔を合わせたくないの、なるべく部屋から外へは出ないようにしている。ある時、ボクたちが廊下を歩いていると、A校の選手であるケンジが『練習場が狭い』とぼやいて『弱いチームが練習したって弱いんだから、早く帰ればいいのに』と言い、周りの選手らも同調して笑っているのが聞こえた。ケンジはボクたちに聞こえることがわかっていて言ったかのように思えた。ボクらはみな腹立たしく思っている。A校の選手の態度はあんまりだ。でも何も言えない。」

ケース2を選択した場合、設問文の中のトシコさんをタロウさん、周さんをケンジに置き換えてください。

ステップ1：誰と誰の話として認識している？（初期設定の明確化）

～双方の立ち位置を明確にして、どの切り口で見ているかを意識化する～

トシコさんの話はトシコさんの見ている初期設定（デフォルト状態）における現実世界

- ① この話のコンテキストにおける周さんは、どんな人として認識されている？言い換えると、周さんはトシコさんの認識する世界の中で、どうキャラづけされている？どんな集団やカテゴリーと一体化して認識されている？
- ② 周さんのことを①で書いた人として認識しているとき、そのコンテキスト上での周さんに対して、トシコさんは自分自身を誰、どういう人として認識していることになる？言い換えると、トシコさんの中のどの自分が表（前面）に出てきている？どんな集団やカテゴリーと一体化した目線から見ている？

ステップ2：変身・お面のつけかえをしてみよう（キャラクター性の別側面への着目）
 ～顔はひとつではない。「いいとこ探し」をして別の側面を意識する～

- ① 周さんのことを、別の顔や側面（キャラクター）で認識することはできないか？
 他のお面をつけたとき（別の「キャラづけ」をしたとき）の周さんはどんな周さん？周さんには別の立ち位置はないのか？
- ② 周さんが②で書いた設定のとき、トシコさんは誰（自分のどの顔・どの面が前に出てきているか）になっている？

ステップ3：コンテキストを変えて両者を包む新たな文脈を探そう（コンテキスト・シフティングによる包括性・連携性の創出）

～二人が一緒に立てる舞台はどこ？どんな場所、どんなとき？どんなとこ？何をしているとき、二人は一緒にいられる？二人は通じあえる？どんな状況・場面の中では、両者は協力しあえるだろうか？（場面変え・状況変え・場所変え）～

両者が交わりあえる新しいコンテキストを想像してみよう。想像できないことは実現できない。可能性に目を開いていこう。トシコさんや周さんを変えるのではなく、そのままのトシコさんと周さんが一緒にいられるストーリーを提案してみよう。

- ① 「しゃーないか案」：ちょっとは嫌でも、そこに目をつむって協力しあえる状態に持っていけるのはどんな場合？
- ② 「共に立ち上がろう案」：何かに対し、共に力を合わせて立ち向かわなくてはならないのはどんな場合？
- ③ 「ニコニコ案」：一緒にニコニコできるのは？笑顔でいい感じになれそうなのはどんな場合？
- ④ 「意外性ポロリ案」：意外な一面をかいまみられそうなのはどんなとき？
- ⑤ 「そういえば忘れてた案」：ふと気づくと、こういうこと一緒にやっているときは気にならなくなっているとか、互いの違いや対立のことを忘れていたりとかいうのはどんなとき？

振り返り：コンテキスト・シフティングをやってみて何に気がつきましたか？自分の中でやる前とは何が変わりましたか？